

氏生所

日本國盡

北陸道

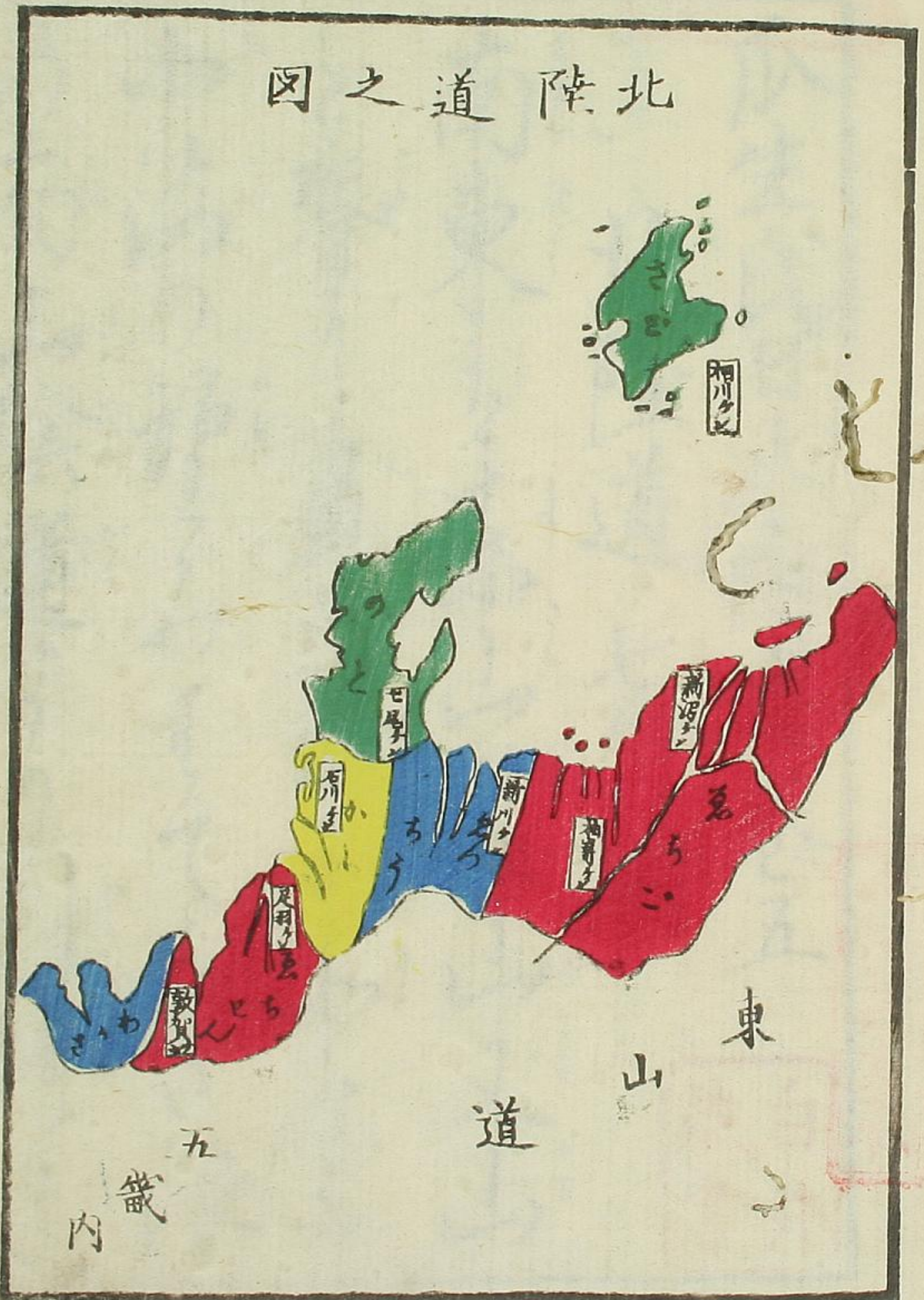
五

柳田文庫
文庫11
A1846
5



北陸道

北陸道之圖



内

48 8881

Handwritten scribbles and marks on the right page, possibly representing a signature or a specific note.

文庫 11
A1846
5



瓜生氏日本國盡卷五
南北陸道七箇國
南東も東山道山又山
を脊り負ひ西も水や
少海の神々みまをるき浪
乃面山陰道より引續き

白井
藏書

北新道之圖



白井文庫

長け細長く延びたる
中

方丹波地を
南に受け東に近江と
城の前は國持は三方を

山おほく乾き一面濱つ
ま入心浦を二つと
中名ある若狭浦
浦に濱し我々
由は一都會一國三郡人
日々大凡七条八千余瓦候

日本國志卷五

陰氣いんき、濕しつおほく、北きたは
 風俗ふうぶくも、為な手てな、如ごと土地ちち不ふ
 名なを得え、産物さんぶつを塗物ぬりもの、石いし
 灰はい、鮪うしほ、小鯛こたい、ささ、
 全国ぜんこくを併あはせて隣國りんこく、越前えちぜんの
 敦賀縣とんがけんの支配しはいを、如ごと

二ふた、越前えちぜんを東南とうなん、小近江こおうみ
 美濃みの、尾張おわり、丹波たんぱ、地ちを接つ、長ながの
 方かた加賀かがの國くに、西にしを、北海ほくかい、
 高たかく、四方しやうほう、山やま、
 只ただ、乾いぬぬのみ、一方いつほう、
 閑ひらく、土地ちち、形勢けいせい、平原へいげん、廣ひろく

地味厚く山々深流
 水もよく國中り通たり
 北は西へ南は濱手り
 山の間り敷賀郡海灣
 長く八丈く小舟舟は碇
 泊場敷賀港北にまわ

く仲哀帝の持統心
 行幸の安まり行宮身
 神威もき氣比の宮落小
 建する物原も敷賀縣
 や隣國は若狭一國高
 玉の今立南條敷賀なる

三つの郡を支配せり。山
ふそ越知山日永岳加賀
を跨がる白山は是を
國に境あり川より白鬼女
是羽川九頭就川の三つの河
一つは今を海へ入る所の

川口より三國あり。これ港
を築く。舟より川を瀬
是羽の川河中より取ら
し市街も福井やと。南
残り此五郡を支配の是
羽縣廳を立役あり。所

日本國書紀卷五
たふし九頭龍川を早瀬川
掛たふ橋を舟のそくさそ
名所よき夕月夜を
屋とまき味河野や栗田
都の地を継体の帝の心
まの河位り即せ玉いぬ

抄此以前宮居のありし
所を是一國中に人
三十五萬四千余氣候
寒く雪深く人気が
邪智多くさきと敷加賀の
一郡を風俗言語として

近江の國よりよく
似たり此は産物も奉書
紙鳥の子紙や雲帯や奉
書油り墨流石谷切石
や舟鱒鱒是ハ頗る健
品多利

才三加賀も越前の北東
少く濱つまき南も北も
山界雲り檜ゆる白山も
越前も此は城の中り跨
のふる岩り消果る時
え何らぬ白妙の深雪つ

日本國書

えんまのりるも根たか東
 越中^{こちゅう}之^のとくえん又山^{やま}抄^{しやう}のき
 抄^{しやう}に北^{きた}の能^のや^やり隣^{りん}に
 了^{りやう}成^{じやう}の海^{うみ}濱^{はま}ま^まへ^へ魚^{いさな}塩^{しん}
 乃^の地^ち越^こ前^{ぜん}界^{かい}り蓮^{れん}の浦^{うら}
 落^{おち}入^いる川^{がは}を^を共^{とも}官^{くわん}生^{せい}川^{がは}抄^{しやう}に

水^{みづ}上の^{のうみ}山^{やま}中^{ちゆう}を^をまた山^{やま}代^{しろ}を
 温^{あつ}泉^{せん}より湯^ゆあ^ある^る抄^{しやう}に
 入^いる集^{しゆ}ふ安^{あん}宅^{たく}の川^{がは}抄^{しやう}に
 口^{くち}を^を深^{ふか}く入^いる江^えを^を
 抄^{しやう}に北^{きた}の^の手^て取^と川^{がは}當^{あた}
 風^{かぜ}由^{よし}に大^{おほ}川^{がは}を^をみ^みた

地冷^{ちひやう}の^り風^{かぜ}つ^く越^こえ
の^り雪^{ゆき}存^{ぞん}一^{いつ}本^{ほん}を^{まも}り
民俗^{みんじゆ}温^{ぬく}和^わの^り本^{ほん}を^{まも}り
て^は地^ちを^{まも}り^て求^{もと}む^{こころ}心^{こころ}な^まき
風^{かぜ}あり^{さう}て^は産^う物^{ぶつ}を^{まも}り
糸^{いと}也^{なり}羽^う二^{ふた}重^{じゆう}加^か賀^が結^{むす}杉^{しん}糸^{いと}

紙^{かみ}奉^{ほう}書^{しよ}紙^{かみ}也^{なり}其^{その}官^{くわん}笠^{かさ}也^{なり}白^{しろ}山^{さん}
硫^{りゅう}黄^{わう}淺^{せん}野^の鮓^す
第^{だい}四^しの^り能^の登^{のぼ}り^て一^{いつ}國^{こく}を^{まも}り^加
賀^が越^こ中^{ちゆう}の^り間^まを^{まも}り^北ふ^さ
出^い大^{だい}岬^{さき}師^しを^{まも}り^三方^{かた}を^{まも}り
濱^{はま}を^{まも}り^國中^{ちゆう}山^{さん}あり^河河^がを^{まも}り

日本書紀卷之五

極々狭き土地少く東
之海灣は廣く其岸
程半嶋あり地峡僅
亦相通す中た南手能
海岸乃七尾を繋ぎ
一港當國一國持す

ま。城中の國射水あり
郡を如く支配する。七尾
縣廳を立置ける。北なる
端は珠洲岬岬を廻る
西の方沖る一面能く
海長閑なり所心喜の日の

浪間より見ゆる七島也。
能登の島山神の浦親の
湊を舟出く濱を傳ふ
て南向小嶋の間をるま
りもも阿武屋福浦
きこもく。南を今濱一の

宮。此れ間を北八江をき。
此一島の人口一十六万七千
余。土地冷なり風烈しく人
氣も狭く少く我々の
産物も織絹布。和紙塗
物素麺也。刺鯖。能王烏賊

黒瀆

中五の國を越中より西
加賀能登南石川東
信濃北越後
隣を水海國に界
みなる山岳西より石動三

國山久利伽羅岳也源氏
峯黒坂山礪波山南
水無國見坂東朝
佛岳劍淨土の間
たなま引く立山や地火の
燃立つ火山あり川を流

彈ゆより里ちながら東きる逆卷波さかまきなみ
の神通川國しんとうがわのくにの央あたを貫つらく
流ながる入いる布ふ施せの海うみ井いの
川がわ口ぐちは富とみ山やまに於おける新あらた川がわ縣の
廳とを置おく於おける管くだ轄かの當あた
玉たまに碓うし波なみや婦ね員びは新あらた川がわ

の三郡のさんぐんなるを射やぶるれ
西にしは海うみの郡ぐんも能あた登のぼる乃すなは七
尾おの支配しはいなり神通川しんとうがわを
中なかつに置おき川がわをけし舟ふね
楫こしの西にしも東ひがしも土地とちの形かたち次つぎ
あり廣ひろく死しるの事ことあり

蝴蝶の羽根を削きたる。形
り。さし。も。く。似。を。り。西。を。
る。羽根。り。中田川。す。た。は。川
に隣國。は。北。北。彈。より。流。は。
来る。水。は。北。北。川。口。の。濱。字。小
を。古。國。府。湊。今。い。た。る。也。

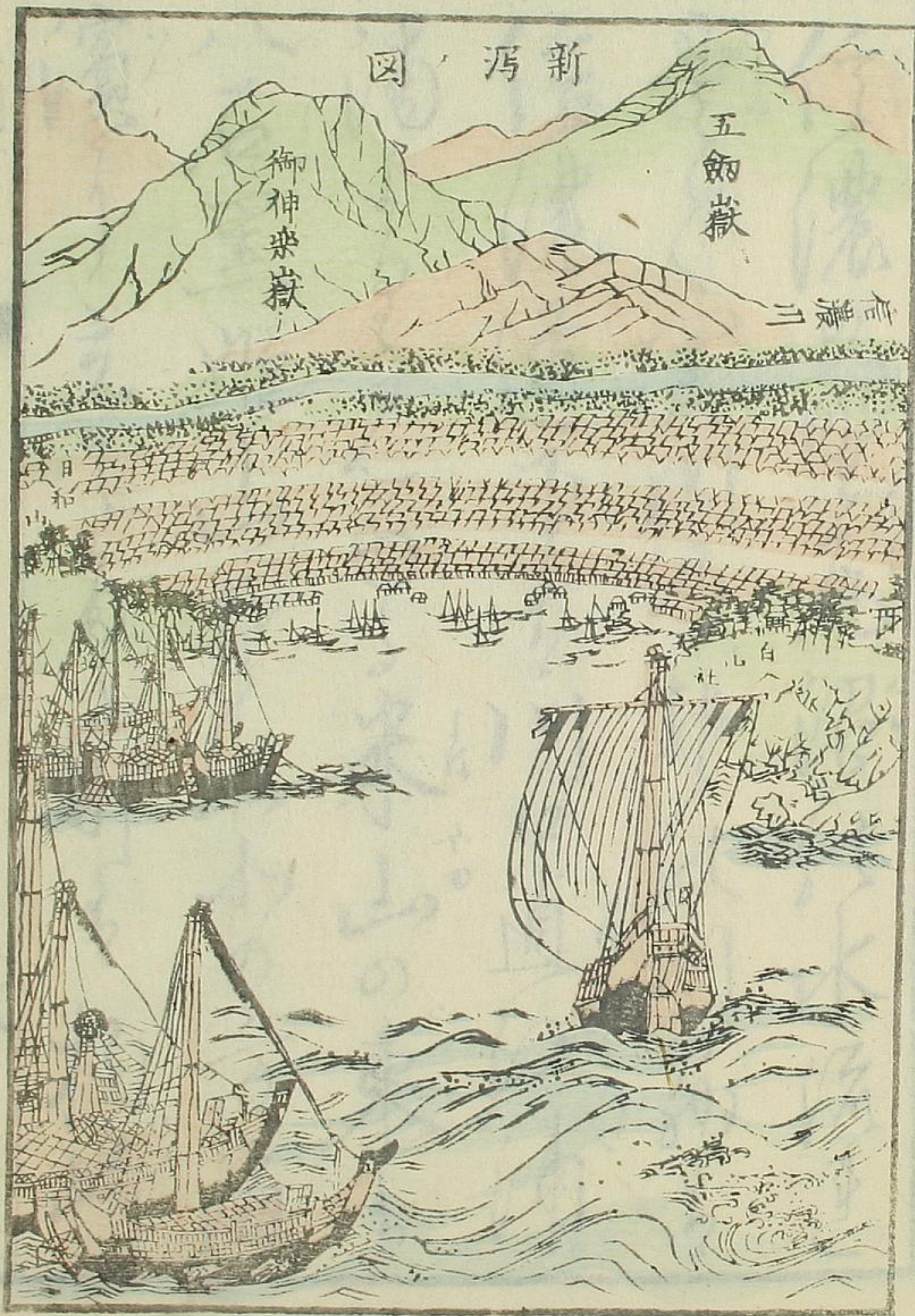
名のみ有礊の名湖は海
東より布施川いりは川持の
水源を立山より熱水雪と
解き流し。み。な。ま。き。ら。ま。な。る。
早瀬。少。く。橋。を。接。橋。相。本
を。北。北。の。方。堺。川。城。後。

の國と此界なり。東の羽根
如く西の方。能登と此間。大
湾。總名富山乃海。や
つふ一國とくく人口三十
四萬五千余。風土を寒く
雪おほく。五穀實るまじく

熱き山を深し。海を魚人
氣も智あり。勇あり。陰
をす。ちあて倭おほし。此の
産物も。八講布。白川糸。や絹
物。や鹽。硝。黄。連。及。菟。丹。龜
谷。鉛。銅。熊。子。

才六番を越後の山。小陸乃
乃家大國越中地より引續
き細く長く良一延びひしり
る羽前より乾き一國岸
る浪浪れあなすしる佐
渡の南東より佐濃地と

上郎と名代り山界。山から
一面より國內山岳野々大
河小川数しけく越中界小
橋立山里姫山や外波山山
のふたなる海岸より雙の難所
親不知より新れ次より駒込



東海川の口。北に東
 あり。姫川あり。信濃のふもとに
 あり。川に東より。名字無。作
 濃の界の焼山を。四時より。火
 煙は絶つる。おと。妙高山と
 火山あり。北に外赤倉不動山

當小七郡、北は中のの南乃
五郡を支配する。柏崎の野尻
ちまの、八石山のの南なる天水
山や、妻が岳曰高る山と此山
間に。信濃のの方より流るは
川を所謂信濃川と大河

中の北は一つ夫より少へ
流通す。大小数川加も多く
海へ流る。此の川口外に
人との交易の場是也。新潟
の大港河舟を運ぶ海舟も
日夜出入せ。絶なく市街

乃繁榮駁一落新瀉
新瀉當國少郡二郡
蒲原岩船を支配せり其
良一島屋瀉阿賀の流也
福崎瀉水上遠く岩代此
國より落る會津川三國

峠を當みむ。佐濃と野
三國の間ありありあり
往來の繁き山の道下海
道とて是をさし。持も
玉ら大玉とて火山乃
多る也。爰より燭の

出づ。火井と云ふる井戸ん
河り。又臭水に油と云ふ地
沸出る油あり。即ち世に
了る石炭油用おと照る夜
の闇造化の妙工と云ふ類し。
其人は大都を一百九万

二千余氣候を以て雪つも
里人氣を極めて員計し
強きよ道し。象あり。其
産物を絹布類晒縮や絹端
漆臭水油鉛あり。
才七佐渡を越はるる地

集あつて入る國府川は近
所櫛比して西廻りて
相川や當國への勢昌地
全國三郡管轄の相川
縣廳もふあり山は地
石を掘りて東へ金

山西より金北檀特上松
山金北山の西南相川
北東鑛山あり堀出
品も世りて不徒波の土
金銀の量今もなるは昔ふ
かきしる影もみ

兼文の昔順徳天皇の在位
臣北條義時より遷すれり
ひし所より今ん東より
河内陵河内一國人曰く余
土地より草木他より穢
五穀牛馬もつと多し風

土多雪と風烈し人
狭く頑固なり其産物
金と銀小鯛強原細辛
と初也。

日本圖書刊行會

二十四

瓜生氏日本國畫卷五
紙



瓜生三寅著

東京大區三ノ小區
三ノ小區
三ノ小區

明治五年壬申十月新雕

東京大區三ノ小區
三ノ小區

名山閣
和泉屋吉兵衛

010190534214

